

個人がどこでも働ける時代に、それでも必要なワークプレイスとは？

それは、チームワークを活性化させる場所であること。

作業は一人でもできる。でも、仕事は一人ではできない。仕事は、社会と関わり社会へ価値を生み出すことだから。

仕事は、人と人のインタラクションに他ならないから。個人がどこでも働ける今の時代に、

それでも必要な、ワークプレイスの価値。

PREX はそう考えます。

PREX が提案する 3 つの新しい働き方

Work as if you were in the mountains.

1：人とその思考を立体的に動かす。

階段を跨いで、立体的・複合的に場所を使うことで生まれる活動的なアクティビティがあります。



■ワークプレイスとしての屋上空間

専有部のキッチンでコーヒーを入れ屋上へ。メールチェック、早めに来た同僚とそのまま屋上で打ち合わせ。PREX では屋上もワークプレイスです。



■ビル全体がワークプレイス

専有部はもちろん、リレコニー、エントランス、屋上。ビル全体が仕事場です。



■エントランスに降りる理由

ランチタイム、日替わりでフードトラックがやってきます。他社の社員とのコミュニケーションが生まれるエントランス空間です。※事情によりフードトラックが来ない日もあります。

2：道具にしばられない。道具を持ち運ぶ。

仕事道具を持ち運ぶことで、チームに最適な仕事場をオフィス内外に創り出せます。



■屋上にミーティングスペースをつくる

机や椅子を屋上に持ち運び、仕事場をつくる。複層利用の場合は、上下階の移動に階段を利用し、道具を持ち運ぶことも可能です。



■オフィスのレイアウトに縛られない

チームに最適なミーティングスペースは常に変ります。プロジェクションに最適なスライディングウォールも、PREX では提案しています。



■会議をしたい場所が会議スペース

可動式のデスク・椅子を使いこなすことで、多様な会議スペースを設ける事が可能です。

3：声を出す。声をかけあう。

人が集まる場所に情報があり、発見があります。人が自然と集まる場所を複数設けています。



■コミュニケーションを生むキッチン

PREX では、大きなキッチンを標準で用意しています。キッチン前のスペースに自然と人が集まります。



■自然と会話が弾む場所

キッチン前のスペースに、ライブラリーを設けたり、大きなソファアを置いたり。人が集まる場所、会話が弾む場所を、PREX では提案しています。



■空の下でプレスト

キブンを変えて、屋上でのプレストや、エントランスでのコーヒータイムが、仕事にメリハリを生みます。※事情によりコーヒーカーが来ない日もあります。

複層階利用が可能にする多様なワークプレイス。

日本最大の設計事務所、日建設計のスペシャルデザインチーム Nikken Activity Design lab が
入居企業の働き方に応じてオフィスの最適解を提案します。

